

## 木の椅子のデザイン講習会

(信州の木の椅子 50 脚展 ギャラリー・トーク)

開催日 2014 年 4 月 29 日(火・祝) 午後 2 時から 5 時まで

※展覧会会期 2014 年 4 月 29 日(火・祝)から 5 月 8 日(木)まで

会場 長野市 ガレリア表参道 参加者数 40 名 報告者 岡田 泰

### <講師>

島崎信(椅子研究家・武蔵野美術大学名誉教授・NPO 法人東京生活デザインミュージアム理事長)

磯田憲一(「君の椅子」プロジェクト代表・旭川大学客員教授)

聞き手 谷 進一郎

会場では信州の木工家25人の製作した50脚の椅子が展示され、ギャラリー・トークの参加者はお気に入りの椅子に座りながら講演会は始まりました。

言うまでもなく島崎先生は北欧デザイン研究の第一人者で執筆された本も数多いのですが、改めて初めてデンマークに渡った頃の話からいただきました。

1950年頃の日本はかなりイミテーションを作っていたそうで、それは誰もがまだ本物を知らず、言われるままに作っていたのです。(それって現代のあのコピー大国と同じではないか?)製作者たちはコピーだとは知らずにモノ作りをしていたのではないだろうかと感じました。

そのような時代に島崎先生は北欧で本物のデザインを学ばれたそうです。

デザイン＝色や形の良さ、だと思っているのは日本だけであり、使い手の目＋自分の目で見極めることの大切さを語られました。ロングセラーの名作椅子も最初は自身が使い手となった物が多いそうです。

- ・ 時代とともに新しい技術が生まれ使える樹種も変わって来ているので、これからは異なる樹種を使ったり、木以外の鉄・ナイロンなど異素材との組み合わせ等も考えるべきである。  
今はモーエンセンやウェグナーの頃には無かった良い素材があるので、椅子の張り材などもペーパーコードにこだわらず色々試して欲しい。
- ・ 木工家は工房にこもりがちだが積極的に情報共有をしながらギブ&テイクで、例えば手をつないでブランドを作る等いろいろな方法もある。現在、専業での木工家が成り立たない北欧などに比べ日本はモノ作りの天国である。
- ・ 自分の線を作る。フリーハンドの原寸にて自分のラインを考え→手で描き→目で見て→手で直し→考え...これがクリエイションで個々のラインが生まれる。
- ・ そうして出来た作品を大事に時間をかけて見直し、プロポーションを考え、脚の太さを変えたり異素材にしてみたり... 忘れず飽きずに少なくとも5年、5~10点はリ・デザインをして丁寧に作品を作って欲しい。

リ・デザインの重要性については以前から言われ、著書の中でも名作椅子の系譜などにも詳しく解説されています。自分自身なかなか実現出来ていないのが現状です。たまに思いついてスケッチをしても実製作には至らないので、やはり実物で比較・検討をすることが大切であると痛感しました。

## 特別展示1 「君の椅子」プロジェクト

町に誕生した全ての子どもたちに椅子を贈る「君の椅子」プロジェクト。2006年からスタートし北海道 東川町、剣淵町、愛別町、東神楽町から全国に広がりました。

これまでに作られた9脚と、「3.11」に被災地で生まれた子どもたちに贈られた“希望の「君の椅子」”が特別展示され、プロジェクト代表の磯田憲一氏より説明していただきました。

「生まれてくれてありがとう 君の居場所はここにあるからね」というメッセージが込められた数々のエピソードは感動的で、椅子作りの意味を考えさせられるものでした。

東日本大震災の日に岩手・宮城・福島で生まれた子供を捜し出し、純粹に誕生を祝えなかったであろう子供たちに「たくましく未来へ」のメッセージをこめて手渡しされた“希望の君の椅子”からは「生まれてくれてありがとう」の思いが伝わりました。

自称「君の椅子 勝手連」の島崎先生も熱く語られ、北海道以外にも「君の椅子」の町を作るのが夢だと言われていました。

また、2014年の「君の椅子」のデザインを担当されたのは谷 進一郎さんであり、さらに身近な存在として、モノ作りの原点を考えさせられました。

## 特別展示2 村上富朗の椅子

2011年に亡くなった村上さんの代表作が展示され、谷さんに説明していただきました。

村上さんの椅子のフォルムのバランスと美しさをあらためて感じましたが、今回、実行委員という事で搬出入の際に触れさせていただいたので、そのしっかりとした作りに加え、軽さにも驚きました。歴史のあるウィンザーチェアはただコピーすれば出来る訳ではなく、作り手によってかなり表情の変わる椅子であると思います。300脚以上も作られたと言う「ウィンザーチェア名手」村上さんの鍛錬の賜物であると感じます。

まだまだ教えていただきたい事がたくさんありとても悔やまれますが、多くの作品が後世に伝えてくれているのだと感じました。

ギャラリー・トークのあとオープニングパーティーがガレリア表参道さんの計らいで行われ、東京など遠方からの参加者も含め、椅子談義に花が咲きました。

長野市ではほとんどない椅子がテーマのイベントであり、貴重な機会を作ってくださいました皆様に感謝します。

これからも、木の国・信州発信の価値のあるものづくりが発展する事を願っています。



信州の木の椅子 50 脚展 会場



木の椅子のデザイン講習会の様子



「君の椅子」プロジェクト



村上富朗の椅子